

tsukamoto hajime  
Art Works



## 塚本 元

tsukamoto hajime

### Biography

阿佐ヶ谷美術専門学校絵画科卒業、フランス遊学（2000）、助手・講師（~2005）。人形町エキジビットスペース Vision' s でギャラリースタッフとして主にデザインワークを担当（~2005）。デザイン事務所 creative Platz に参加（~2007）。日本カラーデザイン研究所にて「SIC イメージ情報」のアートディレクション、編集デザイン（2006~）。現在、アーティストとして作家活動をしながら、フリーランスで官公庁や企業、団体、個人の様々なデザインワークに携わる。塚本元デザインスタジオ 代表。

### exhibition

- 1998 第25回「朝の会」展（洋協アートホール | 銀座）  
個展（アサビソフトラボ・杉並）
- 2000 「ASSISTANTS SHOW!」（SK ギャラリー | 杉並）  
第26回「朝の会」展（洋協アートホール | 銀座）
- 2001 「朝の会」大阪巡回展（梅田画廊 | 梅田）  
個展 / ASABI BAIRI PRIZE vol.1（ギャラリー 21+ 葉 | 銀座）
- 2007 個展（アユミギャラリー | 神楽坂）
- 2008 個展（茶館パレアナ | 神楽坂）  
シェル美術賞 2008（代官山ヒルサイドフォーラム | 代官山）
- 2009 シェル美術賞 2008（京都市美術館別館 | 京都）  
個展（淡路町画廊 | 神田）
- 2011 個展（カフェパンセ | 藤沢）
- 2013 個展（ギャラリー art Truth | 横浜）
- 2014 個展（ギャラリー art Truth | 横浜）

### prize

- 2009 シェル美術賞 2008 入選

### ホームページ

<http://tukamot.webproj-srv.net>

表紙

untitled

85.5×185cm

木炭、鉛筆、糊

キャンバス

2000年

Painting and Drawings  
2000-2014

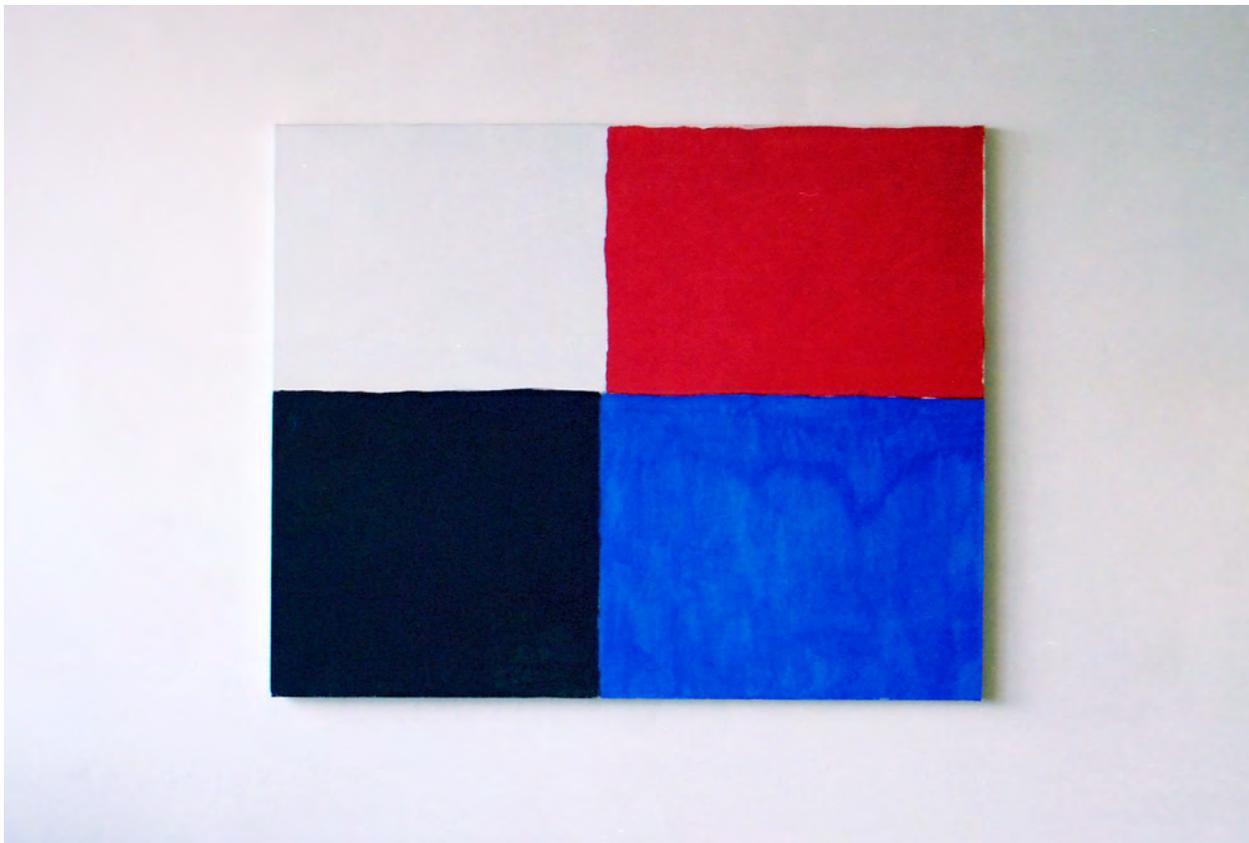


風景  
31.8×41cm  
油彩、キャンバス  
2001年

色彩による空間表現をコンセプトに、主に風景画をテーマとした作品を制作。私の制作のメインテーマである「地と図」が最も顕著に現れる風景画のなかでも、空と地面という普遍的な概念をモチーフにしました。

風景  
60×50cm  
油彩、キャンバス  
2001年





風景  
82.5×102cm  
アクリル、キャンバス  
2000年

この作品では、空間は、ものの形や奥行きを離れ、色彩と面積に集約される。無意識の風景。



風景

170×128cm

油彩、オイルスティック

キャンバス

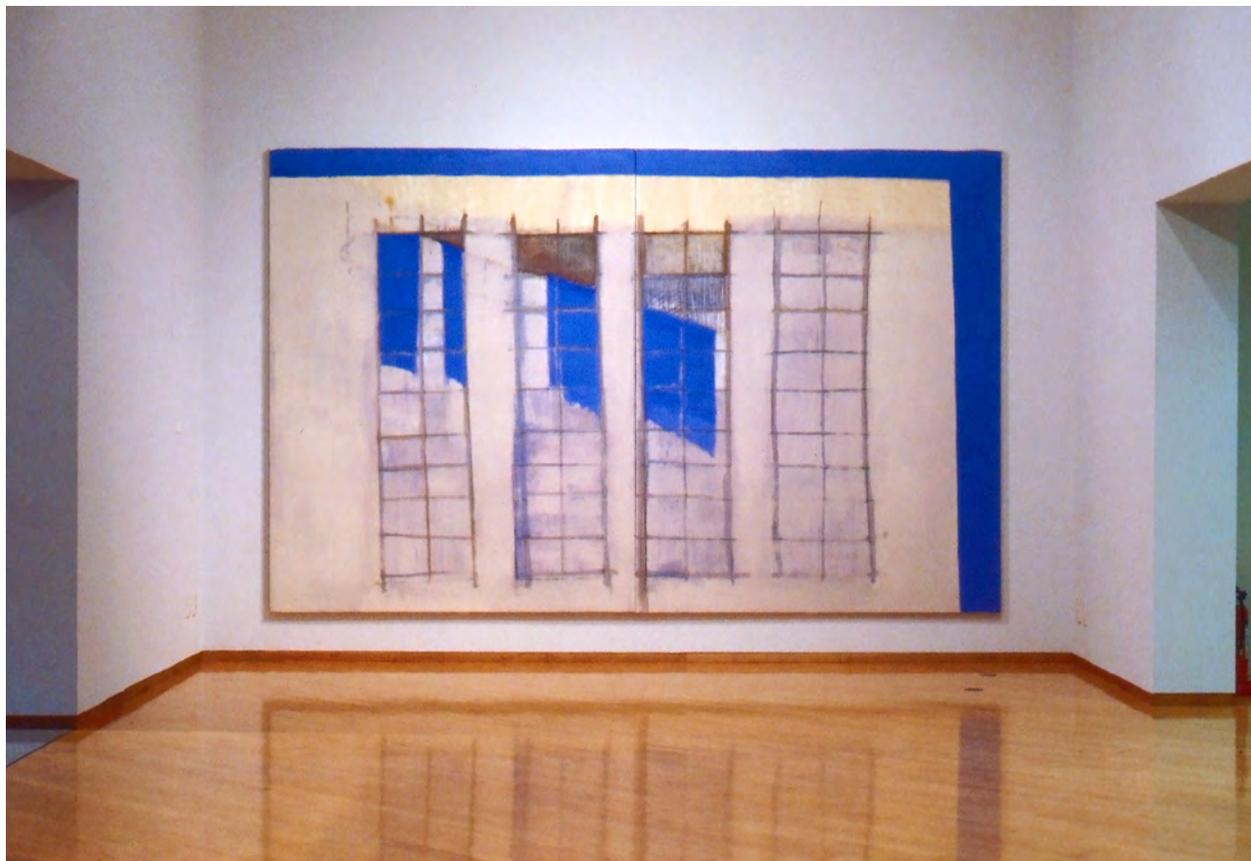
2000年

「空港」は圧倒的な広さと、具体的な空との関わりがある場所。ここでの空は背景ではなく、プールに入っている水のような物質で、われわれはそこに飛び込んでいく。コンコースではプールサイドのような体の重さをイメージする。



風景  
100×83cm  
油彩、キャンバス  
2000年

集合住宅の表面を画面に切りとり傾ける作業。空間は画面の表面より前に出現するかのよう。



風景

363.6×227.3cm

油彩、木炭、キャンバス

2000年

風景（アオキ）  
45.5×53cm  
油彩、パステル、キャン  
バス  
2007年  
-  
アユミギャラリー  
（神楽坂）



銀閣寺（慈照寺）の向月台をモチーフに、庭木や街路樹と組み合わせた風景作品です。日本の植物や「かたち」をモチーフにしたためか、日本的な空間の表現となりました。アユミギャラリーは“終戦後の1953年に高橋建築事務所として新宿区矢来町に木造二階建てとして建てられた”建物で、神楽坂の街並や背後のビルなど、このギャラリーのある一角は特異な景色を作っている場所です。

風景（南天）  
45.5×53cm  
油彩、パステル、キャン  
バス  
2007年



日本美術の余白に空間を表現する要素を取り入れましたが、余白は図に打ち抜かれた形ではなく、植物の図が余白に打ち抜かれています。



垣根（躑躅）  
35×27cm  
油彩、オイルスティック、  
鉛筆、キャンバス  
2007年

「垣根」は通りと敷地をゆるやかに隔てる。こちらと向こうの境界。作品はこちら側でもあり、向こう側でもある。表裏一体の空間。



垣根 (お茶の木)  
35×27cm  
油彩、オイルスティック、  
鉛筆、キャンバス  
2007年

アユミギャラリー  
展示のためのドローイング  
(上・下) 28×38cm  
油彩、鉛筆、紙  
2007年





風景（生垣）  
145.5×112cm  
油彩、キャンバス  
2008年  
シェル美術賞 2008 入選



LA VENTANA  
22.7×22.7cm  
油彩、キャンパス  
2007年

茶館パレアナ（神楽坂）での展示風景。喫茶店のギャラリー空間。



untitled  
53×45.5cm  
油彩、紙、キャンバス  
2008年

椿の花の色は、周りの空間に溶け出し、水面に映る景色のようににじんで溶け出していく。

terminal  
 145.5×112cm  
 油彩、鉛筆、キャンバス  
 2009年  
 -  
 淡路町画廊  
 (御茶ノ水)



塚本元展（2009年）。淡路町画廊（現、御茶ノ水ソラシティ・Gallery 蔵）は関東大震災をくぐり抜けた蔵です。レンガにモルタルを施した固い壁面と木造の床や梁の空間にペインティングとドローイング作品を展示しました。この展示空間と作品がより関わり合うよう、蔵を絶えず出入りする人の気配、ここに入り、折り返して出て行く人の流れをモチーフに、「terminal（終点・接点）」と題したシリーズ作品を制作しました。



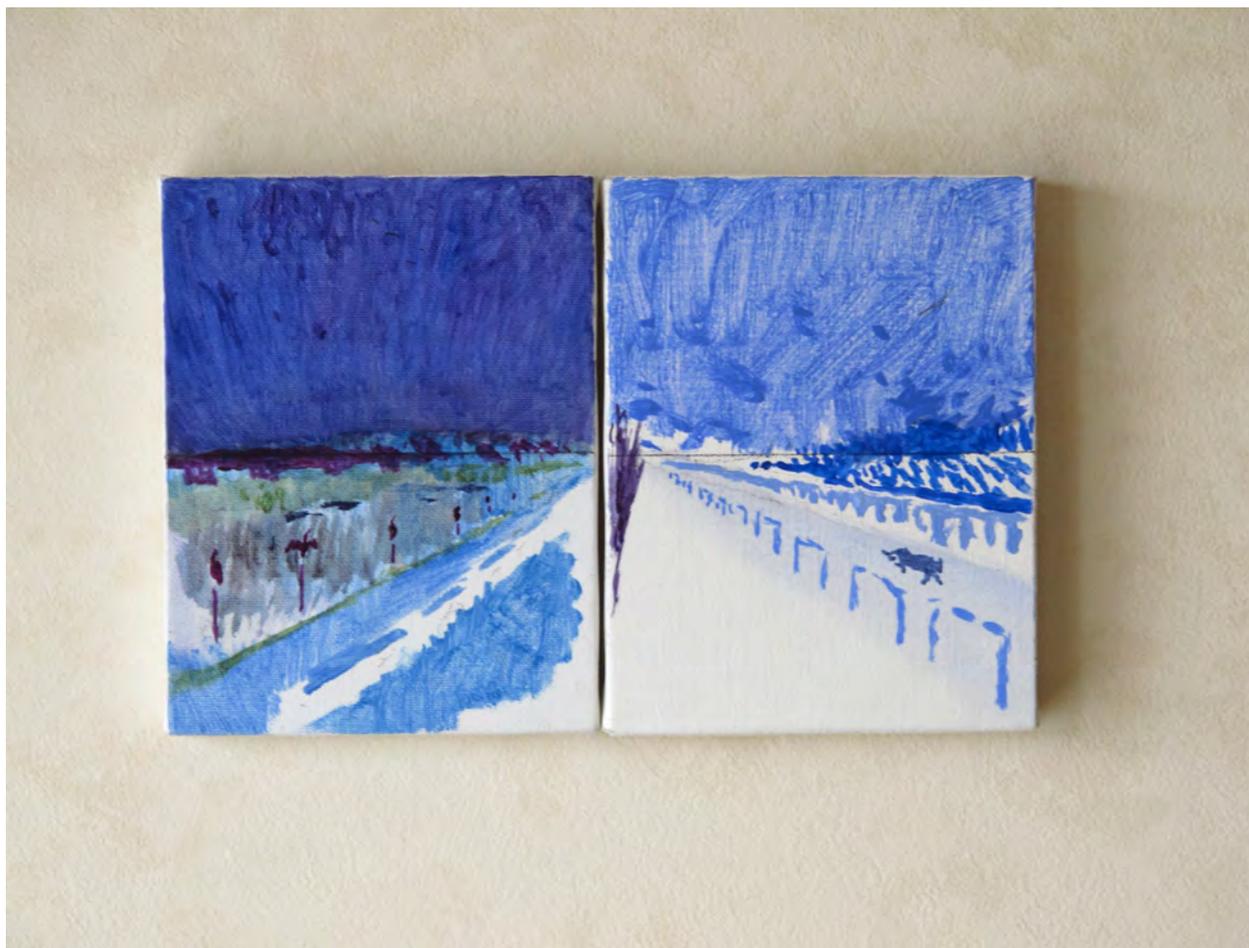
terminal  
145.5×112cm  
油彩、鉛筆、キャンバス  
2009年

帰り道（シリーズ）  
22.7×15.8cm  
油彩、鉛筆、キャンバス  
2014年  
-  
Gallery art Truth（横浜）



「帰り道」シリーズは、空間表現の中に詩的なコンテキストとして「帰り道」を取り入れた作品です。夕暮れ、朝焼け、横切る小動物（猫、鳥）がモチーフとして繰り返し登場します。シリーズに共通するのは、それ以外に、画面の中心に遠近法の水平線があり、ブルーと赤とその組み合わせのパープルの色調とした事です。





左・右  
帰り道（シリーズ）  
18×14cm  
油彩、鉛筆、キャンバス  
2014年

「帰り道」シリーズは、作品を2つ並べると、水平線と消失点が一致して1つの時空が異なる風景を作り出す。



左  
 国道まで川沿いを  
 18×14cm  
 水彩、鉛筆、水彩紙  
 2014年

右  
 帰り道のための  
 ドローイング  
 18×14cm  
 水彩、鉛筆、水彩紙  
 2014年

other drawing



catwalk シリーズ (一部)  
14.5×19.5cm  
水彩、色鉛筆、水彩紙  
2011 年



catwalk シリーズ (一部)  
14.5×19.5cm  
水彩、色鉛筆、水彩紙  
2011 年

# Lecture

FY 描写演習  
 (ワークショップ)  
 176.4×176.4cm  
 鉛筆、紙  
 2003年

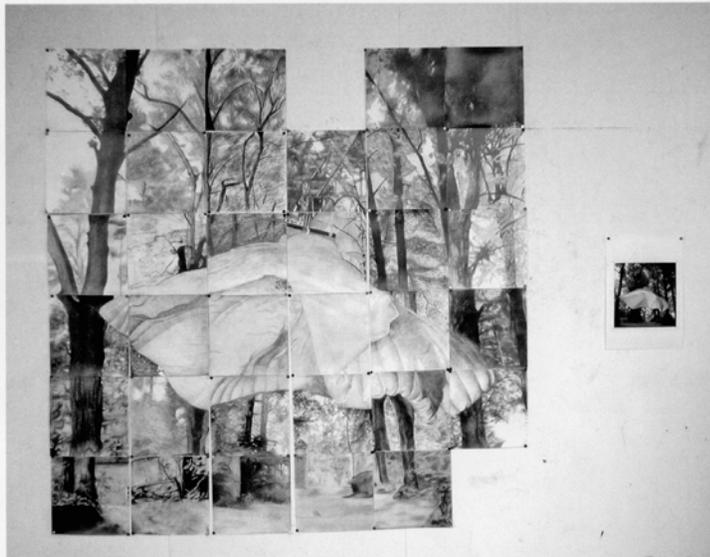
### 描写演習ワークショップ

美術専門学校でのワークショップ。1学年の描写演習で、描画とイリュージョンの関係を学ぶための課題。

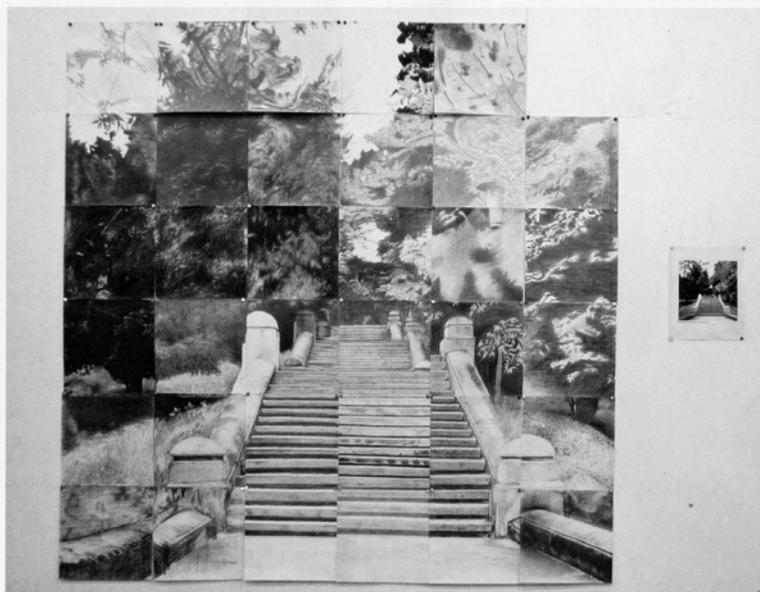
1. 資料写真を正方形の升目状に切り分け、写真の部分のピースを作る。
2. バラバラにしたピースを、学生はランダムに各1つずつ選び、鉛筆で約10倍くらいに拡大描写する。
3. 写真のピースは細かく分割されているため、学生は部分、または部分さえ不明なモノクロームのグラデーションを描写する事になる。なお、その際元になった全体の写真は学生は見ることが出来ない。
4. ピースの裏側につけてある番号順に教室壁面にそれぞれの作品を順番に貼り、組み合わせていく。
5. 元になった写真を掲示し、講評。



■FY描写演習 ローテーション4(D)  
 w1764x h1764mm  
 画用紙・鉛筆  
 2003年



■FY描写演習 ローテーション5(C)  
w1764x h1764mm  
画用紙・鉛筆  
2003年



■FY描写演習 ローテーション2(F)  
w1770 x h1770 mm  
画用紙・鉛筆 2003年